

国語

➡ 2年生 | 「書く・『えいっ』の学習」

「なりきり日記」で、確かな読みと豊かな心情表現を

1. はじめに

教科書改訂により大きく変わったのは、言語活動。それぞれの単元で、より具体的に、最終活動として何を扱うのが明確に打ち出されています。

今回、教育出版2年(上)に新たに掲載された三木卓作『えいっ』の実践について紹介します。

2. 本文の読解を確実に

『えいっ』は「書く」単元であり、「登場人物の様子を思いうかべながら読み、くまの子になったつもりで日記を書く」ことを最終ゴールとして設定しています。日記というところがポイントで、書くために本文を読み、どのような出来事が起こったのか、そのとき主人公はどのような気持ちであったのかをしっかりと押さえていきます。

場面毎に出来事と気持ちがわかる部分にサイドラインを引いていく形で各自の考えをもたせます。その後、どの部分に線を引いたか意見を出し合うことによって、主人公「くまの子」の気持ちをつかんでいく作業を行います。「うれしかった」等の直接表現だけでなく、行動から気持ちがわかる部分を抜き出していくことによって、気持ちにより迫ることができるようになります。

3. 役割で気分を高めて

場面の出来事とくまの子の気持ちがつかめたら、役割読みに移ります。気分を高めるためにくまの子のお面を作り、役になりきるために被ります。その際、読み取ったくまの子の気持ちを込めるようにして音読します。教師が父親役を演じ、二人のやり取りが鮮明に表現できるようにします。そしてその気

持ちのまま、日記を書く活動に移ります。なりきって書くために、お面はつけたまま活動することとします。

4. なりきって日記を書くために

くまの子の気持ちがわかったといっても、すぐに日記を書ける訳ではありません。どのような日記がよいのかというサンプルが必要になります。

今回の単元で児童に身につけさせたいのは、豊かな感情表現が日記の中でできる力です。児童は「うれしかった」「楽しかった」「悲しかった」などの直接表現を多く使う傾向にあります。それは感情表現の語彙が少ないため、それを改善するために『気もちひょうげんカード』を用意します。例えば「ふしぎ」という気持ちは、カードの別の表現では、「まほうみたい」「うそみたい」「信じられない」「なんだろう」「ゆめみたい」「きせきがおこった」など、様々なものがあることを教師が伝えていきます。

「気もちひょうげんカード」の一例

うれしい

・さいこうだ ・ジャンプしたい ・わくわくする

おどろいた

・きぜつしろう ・しんぞうがとまるかとおもった

日記を書く際にはこのカードを配付し、自分がなりきったくまの子の気持ちに合ったものを選んで使います。書いている日記の中からよい表現のものは全体に紹介し、広めていくようにします。

書き終わった日記はグループ内で互いに読み合い、『一言かんそう』という付せんに感想を書き込むことによって、交流を図り、友達のよい表現を自分のものとするようにします。

低学年ならではの活動と手立てにより、児童は生き生きと活動することができるのではないのでしょうか。